

ラボ紹介

アーキテクティングラボ (Architecting Lab)



白坂 成功 准教授

三菱電機株式会社にて宇宙開発に従事。技術試験衛星VII型(ETS-VII)、宇宙ステーション補給機(HTV)等の開発に参加。特にHTVの開発では初期設計から初号機ミッション完了まで携わる2004年度より慶應義塾大学にてシステムエンジニアリングの教鞭をとり、2010年度より現職。

専門分野: 宇宙工学、システムエンジニアリング、コンピュータ安全



前野 隆司 教授

キヤノン株式会社研究員、カリフォルニア大学パークレー校客員研究員、ハーバード大学客員教授、慶應義塾大学理工学部教授等を経て2008年4月より現職。

専門分野: システムデザイン・マネジメント学、ロボティクス、科学技術論

アーキテクティングラボは、システムの構成を創造する方法論である「アーキテクティング」についての研究を行う横断研究型のラボです。アーキテクティングという方法論は、技術システム、社会システムを問わず使われるものです。このアーキテクティングの共通の考え方を理論化すること及び、その理論を用いてさまざまなシステムに対してアーキテクティングを実践していくことを目指して毎週土曜日にゼミを開催しています。このラボでは、博士課程の学生を中心に、卒業生、学外の研究者等が自発的にテーマを持ち寄って参加し、活発に意見交換を行っています。



平成22年度の主な研究活動

1 年度テーマ「System Architecting of the Art」

平成22年度は「System Architecting of the Art」をテーマとして、人の心を動かすシステム(Art)をアーキテクチャの観点から分析することを行いました。メンバーが興味のあるArtについて、アーキテクチャの観点から分析し、報告する活動を行いました。この中では、映画のアーキテクチャ、ドラマのアーキテクチャをはじめとして、楽曲のアーキテクチャ、俳句のアーキテクチャ、色彩のアーキテクチャなどの興味深いアーキテクチャ分析結果が報告されました。対象は多岐にわたりましたが、その中から「緊張と弛緩の関係」、「アーキテクチャの時間的変化というアーキテクチャ」というArtのアーキテクチャに特徴的に見られる新しい観点を見つけることが出来ました。

2 各自研究関連テーマ

年度テーマ以外に、各自の研究をアーキテクチャの観点から報告し、参加メンバーの意見を聞くことも積極的に行っています。今年度は、新しい超小型衛星の開発方法論、博物館、社会システムと制度設計、欲求を活用したビジネスモデル設計、コンプライアンス遵守などのテーマについて発表され、活発な議論をされました。それらの議論は、各自の研究にフィードバックされ、更により研究となるためのきっかけとなっていると思われます。

3 その他

その他として、興味のある論文、文献や社会事象など、システムのアーキテクチャという観点で分析・設計できるものを参加者が自発的に持ち寄って議論をしています。先生が教えるというよりも、議論を通じて各自が新たな発見をし、その発見を発表することで更に参加者が新たな気付きを得るといったサイクルが繰り返されるゼミとなっています。

お知らせ 新カリキュラム紹介



SDMは時代の要請に合致させる形で常にリニューアルを行っています。2011年度には修士課程カリキュラムの改定が予定されていますので、その概要をここに述べます。

さらに連携・融合の進んだ教育へ(2011年度入学者から)

2011年度には、これまで開設以来3年間行ってきた修士課程カリキュラムを一部見直し、システムズエンジニアリングとシステムデザイン・マネジメント学の関係の明確化や、文理融合、教育・研究の深化を実現します。

●コア4科目は「システムデザイン・マネジメント序論」「システムアーキテクティングとインテグレーション」「システムの評価と検証」「プロジェクトマネジメント」に

必修科目であるコア科目を学びやすい形に再配分します。全専任教員がコア4科目のいずれかに参加し、連携・融合教育をさらに推進します。デザインプロジェクトALPSとの連携も強化します。

●技術系科目、ソーシャルスキル系科目の分類を廃止

文理融合教育を推進してきた現在では、技術系・ソーシャルスキル系という科目分類が有名無実化しています。このため、全科目を必修科目と選択科目に単純化。選択科目は、「推奨基礎科目」「推奨俯瞰科目」と一般の選択科目に分け、学びやすいカリキュラムを再構築します。一部の科目は2年次での取得を推奨するなど、学びの流れも明確化します。

●春入学は日本語コース、秋入学は英語コースに

これまでは、春入学者も秋入学者も、日本語・英語どちらの科目を取得しても適切に学べるようにカリキュラムを構成していました。しかし、外国人留学生

が秋学期に入学するケースが多いため、この実情に合わせて、基本的には春入学者は日本語科目を中心に、秋入学者は英語科目を中心に取得すればスムーズに学んでいける体制に変更します。もちろん、春入学者が英語科目を取得することも、秋入学者が日本語科目を取得することも可能です。

世界最先端研究を行う博士課程

博士課程は、基本的には、従来通り専門的な研究を行うコースです。世界最先端の専門的な研究をしたい博士課程入学希望者は専任教員に相談ください。学べる研究領域は理工学から社会科学まで様々です。

(注) 現在構築中の上記カリキュラムは変更になる場合があります。今後のニュースにご注目ください。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/education/curriculum2011.html>



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

* Fax や E-mail での連絡の際には、お手数ですが Subject の先頭に「SDM 研究所」とお書きください。

SDM
System Design and Management